

当院におけるCOVID-19感染予防の対策と実際

地方独立行政法人 佐世保市総合医療センター
内視鏡センター 臨床工学技士 ○浦瀬 憲一

【はじめに】

当院は長崎県北地域の拠点病院であり、急性期及び総合医療を担っている。

2020年度内視鏡検査・治療件数は、4767件、そのうち緊急内視鏡件数が512件。

COVID-19の感染拡大に伴い、当院では通常内視鏡検査時の感染対策に加え、COVID-19陽性患者の緊急内視鏡対応マニュアルを作成した。

今回COVID-19感染後陰性化確認された患者のERCPを行う機会がありシミュレーションを兼ね対応した取り組みについて報告する。

【対策と結果】

- COVID-19陽性患者の緊急内視鏡マニュアルに沿って準備した。
- 機器・物品類の保護にはビニール製養生シートを使用し、床の養生には防水シートと養生テープを使用、人員3名で作業時間は約2.5時間を要した。
- PPEについては、着脱手順マニュアルを各部屋に貼付したがスムーズに着脱出来なかった。また、ゴーグル使用時に曇りで視界不良となり、治療に支障が生じた。
- スリット入りサージカルマスクを使用し、エアロゾルの飛散防止に努めた。

【考察】

準備でもっとも時間を要したのは、機器・物品類の保護・床の養生だった。壁や床などの環境表面が医療従事者への感染に関わることは稀であり、緊急内視鏡の際には必要最低限の時間・物品・労力で準備から対応を行うことが求められている。過剰な準備対策より、PPE・手指衛生・使用後の清掃の徹底が重要であることがわかった。

【まとめ】

日々内視鏡検査・治療を行う患者に、後日COVID-19感染が判明する症例が増加している今回はCOVID-19陽性患者の緊急内視鏡を想定してシミュレーションを行ったが、全ての患者に対して感染対策を徹底するとともにスタッフ間のマニュアルの周知、感染対策に関する手技の向上に向けた取り組みを行い、安全な内視鏡検査・治療が提供できるよう努めていきたいと考える。